



(文・西前輝夫)

ひと・まち

さいたま沿線版

米国のかつての郊外を思わせる住宅街が入間市東町1丁目にある。約3万3千平方メートルの敷地に、約140棟。白い横張りの板壁に三角屋根が乗った平屋が目立つ。

古いものは「米軍ハウス」、模して新築されたものは「平成ハウス」と呼ばれ、合わせて約40棟がカフェやレストラン、雑貨屋などの店舗として使われている。

「帯は「ジョンソンタウン」と呼ばれる。名の由来は、付近にあった米軍ジョンソン基地(現航空自衛隊入間基地)だ。米軍が戦後、旧日本陸軍航空士官学校を接収して建設した航空基地。1950年から朝鮮戦争が始まると、米軍は増強され軍人や家族向けの賃貸住宅ができた。それが米軍ハウスだ。現在、タウンを管理している磯野商會が建設した。

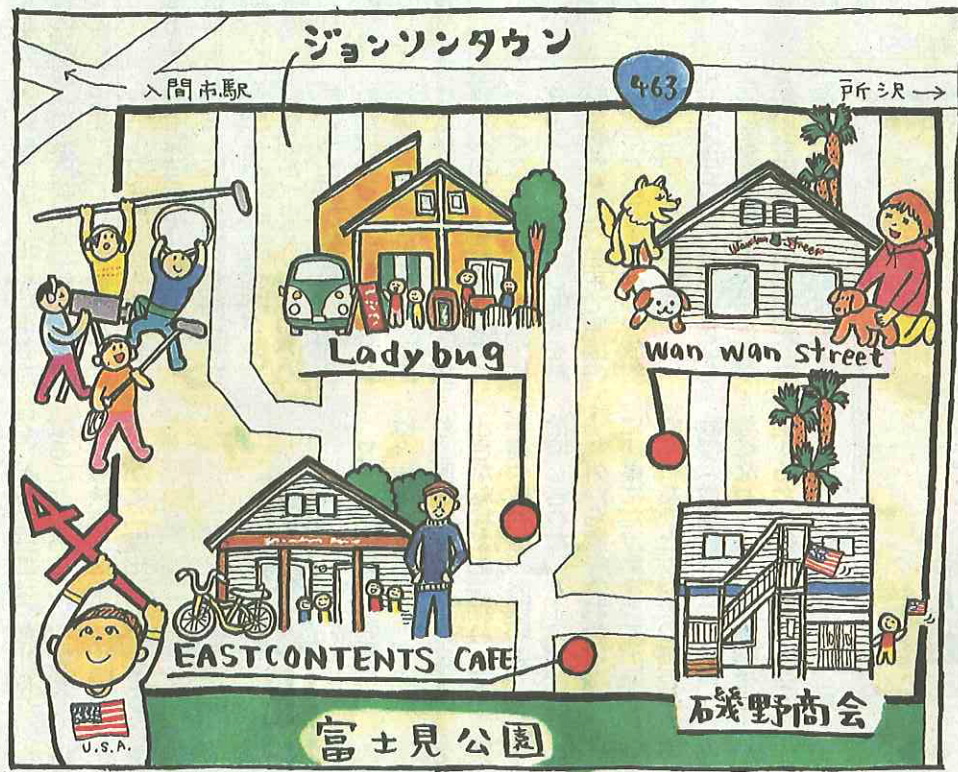
3代目社長の磯野達雄さん(72)は、老朽化したハウスの改修や道路、下水道整備に取り組んできた。「壊さずに保存したい。大人が安らげる空間を意識しています」

2009年には「ジョンソンタウン」を商標登録。昨年はパンフレットも作成した。いま約200人いる住民を増やして、タウンをもっとにぎやかにしたい、と意欲を見せる。住居兼音楽事務所として使う高田清さん(46)は、タウンが気に入った理由について「ここでは時間がゆっくり流れる」と言う。

タウンは映画「シユガー&スパイス〜風味絶佳〜」やテレビ番組「相棒」のロケ地としても使われた。

## 入間・ジョンソンタウン

## ゆっくりと流れる時間



イラスト・ことな

### 100種類のカクテル

「EASTCONTENTS CAFE」(04・2963・7・4710、月曜休み)では、天気の良い日にテラスでくつろぐ女性の姿が見かけられる。



100種類のカクテルは、600〜700円。オムライス(1100円)も人気。

「まちが個性的で、リピーターが多い」と言う。今どき珍しいシユークボックスも置いてある。

### 地元産の食材でワインいかが

テナントショップの意味のワイン居酒屋「Ladybug」(04・2935・7448、水曜と第2・3火曜休み)は、入間市出身の仲内寛さん(34)が夫婦で切り盛りする。まちの再開発の話に興味を抱き、



2年半ほど前にやってきた。仲内さんは「独立して初めて開く店なので集客に苦労すると思ったが、タウン内にあるので、新規の客も得やすい」と言う。屋は付近の主婦、夜は30〜50代の女性同士や夫婦連れが多い。有機ハーブ入りサラダ(780円)や生ハム(600円)をつまみながら、ワイングラスを傾げる人も。食材には気を使う。有機野菜は中学の後輩の農家から仕入れ、卵も地元産の専門店からしか買わない。「遺伝子組み換えの食材は使わない。地産地消で入間を盛り上げていきたい」と仲内さん。

### 犬のしつけ幼稚園

タウンを歩くと、女性が犬を連れて散歩している光景にぶつかるといっしょに入れるカフェもある。犬に優しい環境の中に店を構えるのが、犬の幼稚園「wan wan street」(04・2963・5519、土日祝日休み)。



犬(40)が10匹の子犬を預かり、トレーニングを施している。犬が小さいときに社会化を学ばせるのが大切。ほかの犬といっしょに、人と暮らすルールや犬同士のルールを教えている。伏見さん。伏見さんは米軍ハウスが好きで、東京都福生市の米軍ハウスにも住んだことがあるという。